



ZENFUREN

2015年10月2日

号外

全国国立大学附属学校連盟
全国国立大学附属学校 PTA 連合会
〒105-0001 港区虎ノ門1-2-29
虎ノ門産業ビル8F
TEL : 03-3591-2091
FAX : 03-3591-2092
E-mail : jimukyoku@zenfuren.org
制作 : (株) 税経 印刷 : (株) 明光社

全附P連PTA研修会 第6回全国大会

「生きる力、感じる心を育てよう」

～養老流 子育て論～

東京大学名誉教授 養老孟司氏

ベストセラーになった「バカの壁」が出版されたのは、今から十二年前の二〇〇三年です。四百三十万部という売上部数歴代三位の脅威的記録を出した本を書かれた養老先生の子育て論を全附P連のPTA研修会で聴けることを、とても楽しみにしていました。

養老先生のご専門は解剖学ですが、あらゆる分野について造詣が深く、著作やお話の中には、医学はもちろん、哲学、自然科学（特に昆虫、古典文学、芸術、システム論、戦争、宗教、潜在意識といったさまざまな分野の知識と、たくさん統計データや興味深い事例が登場します。

そして、報告事例の向こうに必ずある報告されなかった事例まで、「バカの壁」を軽く超えてイメージを抜け、我々には一見関連が低そうに思える情報をまるで脳内神経細胞ニューロンのネットワークのようにつなぎ、新しい視点、新しい概念を提供してくれます。

著作の中でおっしゃっている「面白いと思うことしか教えない」という言葉の通り、こういうご自身が発見された視点のお話をされるときは養老先生ご本人が一番楽しんでるように見え、昆虫採集をしているときの姿が目に見え、世界を大きく分けるとすると、（人間が作った

た世界」と（作っていない世界）、つまり（人工）と（自然）に分かれる。（人工）は、人間がコントロールして、求める価値を作っていくもの。（自然）は、人間の思い通りにはできず、人間の意図を超えた価値を持っているもの。そして、子どもは（自然）の方に属している。

この考えには、私たち親が知っておくべきことが詰まっていると思います。すべての親が子どもには幸せになってほしいと思つていますが、そのための「管理」しようと思つてしまうこともあります。ですが、自然を完全に予測したり管理することができないのと同じように、子どもも予測したり管理したりは完全にはできないのだと、親はその覚悟を決めて、一緒に歩んでいく。しかし子どもは、親が考える範囲を超えた価値をも持っている。その価値の可能性を閉ざさず、伸ばしてあげるのが親の役目ののだなど。

子どもは「ああすれば、こうなる」というようなものではない。ですが動物も人間も、最新の子育て論を知らなくても、数億年にわたつて子育てをし、命をつないできました。その生命が秘めた大いなる力が、私たち親にも子どもにも備わっている。多岐にわたる養老先生の子育て論の根底には、この生命へのゆるぎない信頼と、生きることへの喜びがあるのでは、と感じることができると素晴らしい講演でした。



基調講演



オープニングセミナー ～附属パネルディスカッション～ 「魅力ある附属学校のために」



文部科学省高等教育局
大学振興課教員養成企画
室長 柳澤好治氏



全国国立大学附属学校連盟
理事長 首藤敏元氏



全国国立大学附属学校
PTA 連合会
会長 加々見寛行



全国国立大学附属学校
PTA 連合会
前会長 岡山和広



コーディネーター
木場弘子氏
(キャスター・千葉大学客員教授)



会長 加々見寛行

ようこそ第6回全国大会へ

本日は、第6回全国大会に多数の皆様にお集まりをいただきまして、心より御礼を申し上げます。本日の最初にこれまでのリーダーズセミナー、女性会を廃止しオープニングセミナーとして立場の

異なる四人のパネリストが附属の現状とこれからの附属についてディスカッションするところから始まりました。続いて養老孟司様の含蓄のあるご講演をお聴きいただいたことと思います。そして、今回のメインとも言えるべき、ご参加の皆様が主役となる、校種別分科会です。頂いたアンケートから全国的な集まりなのだから違う地区の方々と是非とも交流を深めたいという要望から実現しました。朝のセミナーから得たヒントと日頃より皆様が活躍されている、それぞれの地区からの思いを話し合うことが出来たと思います。その思いや感動

をそこで終わらせること無く、そのままの組み合わせで交流会へ移動する様にいたしましたので、この号外が配られる頃には、存分に交流が出来たのではないのでしょうか。明日は、辻井いつ子様、林修様のご講演をお聴きいただきまして、前日の思いと共に最終日の講演で得た新たなヒントをお土産としてお持ち帰りになってください。そして、この研修会が明日からの活動とご自身の生涯学習の一環として、新たな一歩へと歩みを進めるための会であったと思つていただければ幸いです。



本大会の最初のプログラムとして、オープニングセミナー「魅力ある附属学校のために」というテーマで開催されました。コーディネーターは、キャスターで千葉大学客員教授の木場弘子さん。木場さんは千葉大学教育学部を卒業され、TBSのアナウンサーとして『筑紫哲也ニュース23』への出演などで活躍された後、最近では、教育や環境・エネルギー分野を中心に、多方面で活躍されています。パネリストには次の方々にご登壇いただきました。文部科学省高等教育局大学振興課教員養成企画室の柳澤好治室長。全国国立大学附属学校連盟の首藤敏元理事長。全国国立大学附属学校PTA連合会の加々見寛行会長と岡山和広前会長。セミナーは、国・教育行政、大学学部・学校、保護者・PTAそれぞれのパネリスト立場からの意見を木場さんがうまく引き出しながら、コーディネーターする展開となりました。附属学校の魅力を再認識した後、現状や課題、今後の附属学校に期待すること、その中で全附P連が担うべき役割など活発な議論が交わされ、立場を超えて魅力ある附属学校を創造して行くことの必要性を確認し合える、大変意義あるパネルディスカッションとなりました。テレビ出演、コーディネーター、講演や執筆活動など多忙の中、附属学校のため尽力いただいた木場さんに感謝申し上げますとともに、今後の益々のご発展、ご活躍を心より祈りいたします。

中学校・中等教育・高校合同部会



パソコンやスマホは便利なツールですが、ネットによるいじめや個人情報の流出、ネット依存の危険について知らない方もいることと思います。講師の木村尚文先生にそうしたネットトラブルの現状やリスク等についてレクチャーしていた

だき、親として子どもにどう向き合えばよいのか等をグループごとに意見交換しました。ネット社会は「包丁」のようなものであり、家庭はもちろん学校や地域の取り組みが必要であることも理解できました。

小学校部会



文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室室長補佐の荒木秀治様をお迎えし「2020年度大学入学希望者学力評価テストの導入に向けて」、「キャリア教育」について国としての方向性や評価テスト導入の意図するものを大枠でお話した

できました。その後テーブル毎に「どう感じたか」や「親として出来ること」「学校に望むこと」等について議論が行われました。大変興味深いテーマであり、親の思いが感じられる熱い分科会となりました。

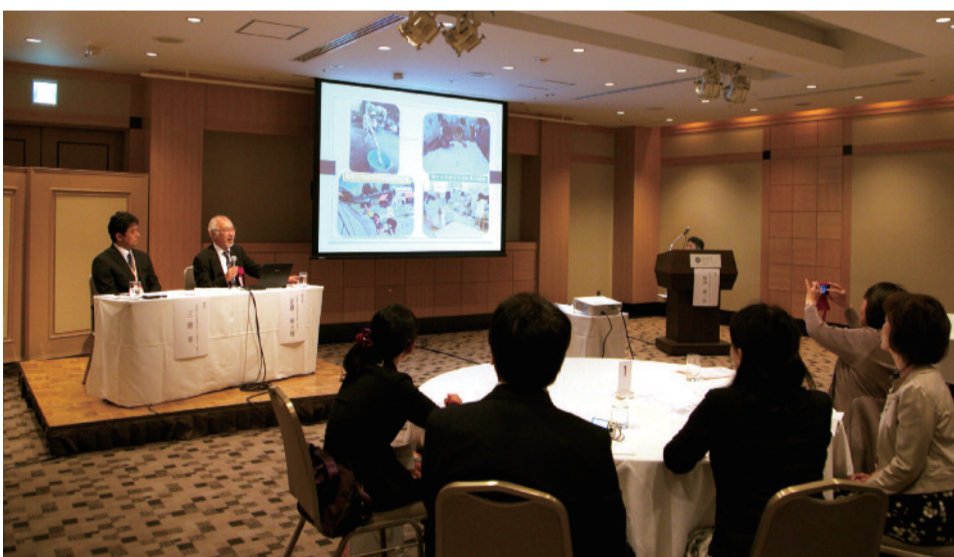
特別支援部会



真の「理解」、「共生」とは～附属特別支援の特色あるPTA活動を考える～をテーマに、まず全附P連の元会長で東京学芸大学附属特別支援学校若竹会（卒業生・在校生と保護者の会）の岡部太郎さんのレクチャーを受け、参加者がテーブ

ルごとにグループ討論をして代表者による発表も行いました。子どもが附属在籍中に未来をワクワク夢見ることができるよう、皆でヒントを出し合いながら貴重な意見交換もできた意義深い分科会でした。

幼稚園部会



社会環境の変化を背景に、附属でも定員割れする園が増加しています。本部会では、「魅力ある附属幼稚園」創造のための具体的な方策、というテーマで、全国国立大学附属学校連盟の首藤敏元理事長を助言者としてお迎えし、附属幼稚園

の存在意義や「魅力ある附属幼稚園」創造の必要性をご理解いただいた上で、グループごとにその具体的な方策を討議し発表していただきました。今後の幼児教育における課題を共有できる、価値ある分科会となりました。

教育後援会会長会



「これからの附属学校のために機能する教育後援会とは」をテーマに、座長を務める全附P連の久保元会長と田中理事の司会進行により、教育後援会を巡る現状分析の説明がありました。参加者による活発なディスカッションと文部科学省

高等教育局大学振興課教員養成企画室長補佐の森次郎様から助言もいただき、私たち教育後援会会長が大学・学校、PTAと連携した真の支援者としての責任と使命を負っていることを痛感する部会となりました。

「絵画コンクール」 入選作品の展示



今年も「ぼくのわたしのこころの宝物」をテーマに絵画コンクール2015が開催されました。今年は北海道教育大学附属札幌小学校が主管校となり審査が行われ、「会長賞」「特別賞」「カンガルー賞」が選出されました。また、例年と同じく岐阜大附属ご出身のアーティスト日比野克彦様に特別審査員をお願いし「日比野克彦賞」を選定していただきました。素直でのびやかな子どもらしい多数の入選作品に来場者も足を止め熱心に見ておられました。

特別支援学校作品の展示



全附P連特別支援委員会では『カンガルーシップ活動助成金事業』を柱に様々な活動を行っております。展示コーナーでは皆様にお配りした記念品及び製作時の写真を展示いたしました。パネルの前では多くの方が足を止め熱心に見ておられました。今回お配りした記念品は子どもたちが心を込めて一生懸命作成した物です。子どもたちの励みにもなりますので、お持ち帰りいただき是非有効にご活用ください。